



お客様情報管理ソフトを 2台以上のパソコンをつなげて利用するために必要なこと



このたび、お客様情報管理ソフトでは、2台以上のパソコンをネットワークで接続して利用することができるようになりました。

そのために、準備いただく環境や条件等がありますので、事前に確認するようにしてください。

※1台で利用する場合には、下記に説明する環境の構築は必要ありません。

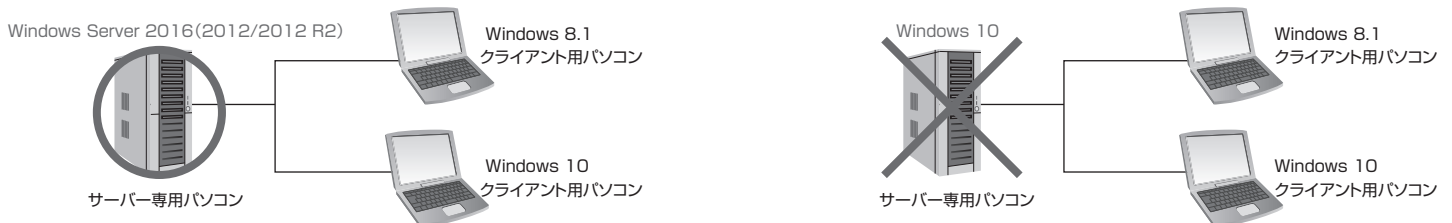
※**必要な環境の構築につきまして、各企業様でご準備、ご負担頂きます様、お願い致します。**

※**環境構築については、各企業様のシステム(ネットワーク)担当者の方や、パソコンセッアップ事業者の方などに確認するようにしてください。**TOTOでは、ネットワーク環境に関してのお問い合わせにはお応えできませんので、予めご了承ください。

必要となる準備

①サーバー専用(データ保管用)パソコンとなるWindows Server 2016(または2012/2012 R2)の準備 ※ライセンス含

データを保存するサーバー専用パソコンには、OSとして「Windows Server 2016(2012/2012 R2)」であるパソコン(ライセンスを含みます)が必要になります。Microsoft とのソフトウェア使用許諾契約に違反となるため、サーバー専用パソコンに、Windows 8.1 や Windows 10 といった、クライアント OS がインストールされたパソコンを使用することはできません。サーバー用 OS (Windows Server 2016(2012/2012 R2)) 搭載のパソコンが必要になります。



※パソコンや OS、サーバーライセンスのご購入については、パソコン販売店などにお問い合わせ・ご相談ください。

②利用するクライアント用パソコン(閲覧・更新用パソコン)分のCAL(キヤル)の購入

サーバー専用パソコンに接続してお客様情報管理ソフトを利用するためには、利用する台数分の「CAL(キヤル)」というライセンスが必要になります。

例えば、サーバーに、5 台のパソコンを接続して利用する場合、5CAL(キヤル)分のライセンスを購入する必要があります。接続する台数が追加された場合は、追加された台数分の CAL(キヤル)を購入する必要があります。

※CALとは「Client Access License (クライアント アクセス ライセンス)」のことで、クライアント (サーバーに接続される機器のこと。多くは PC) がサーバーにアクセスするための許可権のことです。

※CALについてのお問い合わせは、マイクロソフト社またはパソコン販売店などにご連絡ください。

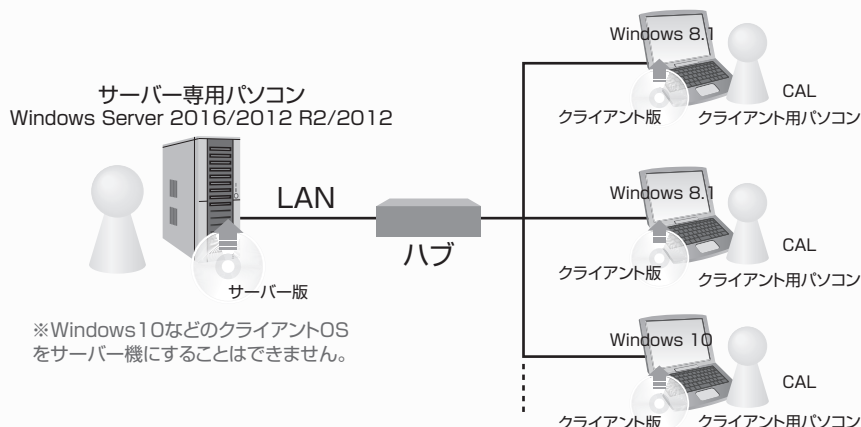
②ネットワーク(LAN)環境の構築

必要な機器やライセンスの準備ができれば、ネットワーク環境を構築します。

ネットワーク環境の構築については、下の図のような形になりますが、現在構築されている環境によっても異なりますので、各企業様のシステム(ネットワーク)担当者の方や、パソコンセッアップ事業者の方などに確認するようにしてください。

※TOTO では、ネットワーク環境に関してのお問い合わせにはお応えできませんので、予めご了承ください。

お客様情報管理ソフトを2台以上のパソコンをつなげて利用する際のイメージ



※お客様情報管理ソフトでは、離れた場所にある店舗間でのデータの共有はできません。本ソフトは同フロア内での利用に限られます。

※LAN 回線部分は、無線 LAN で代用することも可能です。

※有線 LAN 環境と無線 LAN 環境を混在させた場合、うまく接続ができない場合がありますので、接続環境は統一されることをお勧めします。

※異なる場所にある店舗間でデータを共有することはできません。



社内ネットワーク(LAN)環境を構築するための手順

手順①

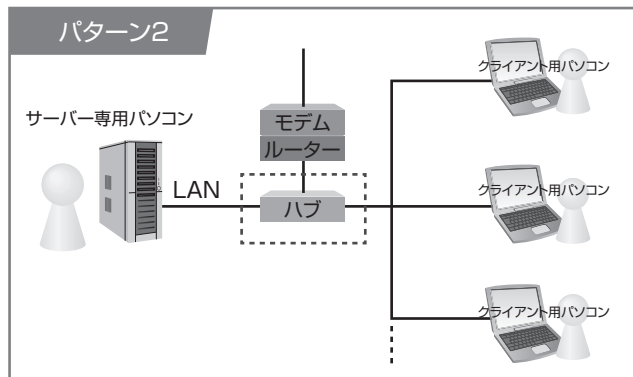
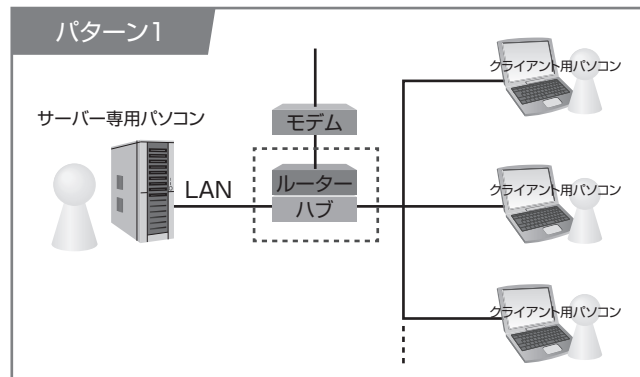
現在構築されている環境によって、必要となる機器は異なりますので、まずは現在の接続環境を確認する必要があります。

まず、インターネットに接続されている場合、「モデム」と呼ばれる機器は必ず接続されています。

そのモデムに「ルーター」と呼ばれる機能が内蔵されている場合とそうでない場合で必要となる機器は異なります。

【パターン1】ルーターが内蔵されていない場合 --- ルーター(ハブ内蔵)の機器が必要になります。

【パターン2】ルーターが内蔵されている場合 --- ハブのみが必要になります。



手順②

お客様情報管理ソフトをネットワーク環境の中で利用するために必要な機器を【手順①】の結果に従って準備します。

その他、各機器を接続するための「LAN ケーブル」を接続に必要な数だけ用意する必要があります。

さらに、データを保存するサーバー機には、OS が「Windows Server 2016(2012/2012 R2)」であるパソコン(ライセンスを含みます)と、サーバー機に接続して利用するクライアント機には、使用する台数分の CAL(キャル)というライセンスが必要になります。(表面下部参照)

※サーバー機には、サーバー用OS(Windows Server 2016(2012/2012 R2))が必要になります。Windows8.1 などのクライアント OS をサーバー機にすることはできません。

手順③

必要な機器やライセンスの準備ができれば、ネットワーク環境を構築します。

ネットワーク環境の構築については、現在構築されている環境によっても異なりますので、各企業様のシステム(ネットワーク)担当者の方や、パソコンセットアップ事業者の方などに確認するようにしてください。

※TOTO では、ネットワーク環境に関してのお問い合わせにはお応えできませんので、予めご了承ください。

必要な機器	説明	費用の目安
LAN ケーブル	LANケーブルは、回線の接続に必要なケーブルで、回線をつなぐための距離によって必要となる長さが異なります。 家電量販店で様々な長さのものが販売されているので、利用環境に合わせた長さのものをご購入ください。 本数も接続するパソコンの台数に応じて必要になります。	1 本 300 円～5000 円程度 (長さによって異なります)
ルーター	データの流れの交通整理をするのがルーターです。2台(以上)のPCなどで同時にインターネットをする場合は必ず必要です。 ただし、ルーターを見ると口がいくつも付いているものがあります。これは、ルーターの背中にハブ機能が付いている機器ということになります(パターン1)。その場合、使用台数が口数内に収まるならば、ハブ機器は不要ということになります。	2000 円～5000 円(ハブ内蔵型) ※モデムに内蔵されている場合は不要
ハブ	ハブは、接続するパソコンやプリンターの接続数を増やすための装置です。 モデムにルーター機能が内蔵されている場合(ADSLモデムにこのタイプが多いようです)、あとはハブを追加して口だけ増やしてやればよいということになります。(パターン2) ※モデムにルーター機能があるかどうかを見分けるのは難しいので、モデムのマニュアルの仕様のページを読んでみてルーター機能に関する記述がないか確認してみてください。よくわからない場合は回線事業者から借りているモデムであれば回線事業者に聞いてみてください。	5000 円～ (接続数が多いと価格が上がります)
Windows Server ライセンス + 接続する PC 分の CAL	パソコン同士を接続して1台をサーバー機(データをためておくパソコン)にして、そのパソコンに対してアクセスができるようにする使い方(お客様情報管理ソフトを複数台のパソコンで使用する使い方)をする場合、Windows Server 2016(2012/2012 R2)を搭載したパソコン(ライセンス含む)と接続するパソコン分のCAL(キャル)が必要になります。	164,251 円 ※ライセンス +5CAL 分 (amazon 調べ)

環境を構築する場合の例

モデムにルーターが内蔵されている場合、5台のパソコンを接続する場合

- | | |
|---|------------------------------|
| ① LAN ケーブル ×6 | 6,000 円(1 本当たり 1,000 円で計算) |
| ③ ハブ ×1 | 5,000 円 |
| ④ Windows Server 2016 Standard 64Bit 日本語版 5 CAL 付 | 164,251 円(amazon.com 調べ) |
| ⑤ Windows Server をインストールする PC(新たに用意する場合) | 約 60,000 円(パソコンの性能によって異なります) |
| 計 235,251 円 | |

※各機器やライセンス等の価格については、販売店や性能によって異なりますので、詳しくは家電量販店やパソコンショップ等にお問い合わせください。

※ネットワーク環境を構築する上では、事前にインターネット接続事業者や社内のネットワーク担当者に確認してから実施するようにしてください。